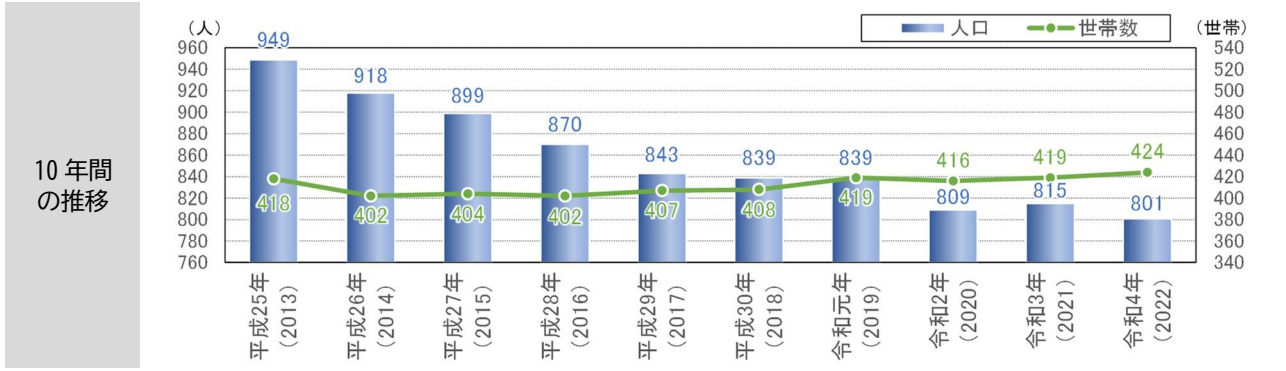
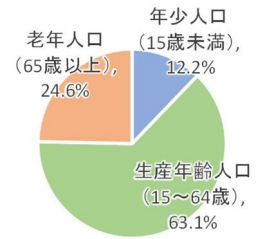


	世帯数	人 口	年 齢 別 人 口
現 在	424 世帯	801 人	15 歳未満 (年少人口) 104 人
			15~64 歳 (生産年齢人口) 538 人
			65 歳以上 (老年人口) 210 人
約 50 年前	227 世帯	604 人	



10年間の推移

歴史等

古代律令制では播磨国神前郡高岡里、中世は高岡荘に含まれたと考えられます。『神崎郡誌』によると、元亀元年(1570)頃に法古掃部の末孫九郎兵衛が仏教説教所の道場を建て、本願寺から開基御免を受けた時に初めて馬田村と称したとされており、これが現在の西正寺にあたります。近世は姫路藩領で、大庄屋組は山崎組に属しました。

『兵庫県播磨国地種便覧』によると、明治14年(1881)の戸数は65戸・人口は322人でした。明治22年(1889)に福崎村の大字となりました。明治24年(1891)の人口は331人と、明治14年と大きく変わっていませんが、明治27年(1894)に播但鉄道が開通して福田に福崎駅が設置されると、次第に人口が増加し、大正9年(1920)には518人となり、福田・駅前と福崎新に町並みが接するようになりました。



稲荷神社



西正寺



馬田出屋敷路傍 道標



サクラ (児童公園)



秋祭り・屋台



地藏盆

※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

## 歴史文化遺産一覧

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	1	手水石（西正寺）	寛政6年 (1794)	手水石。正面に「寛政六甲寅九上□ 当村 若者中」と記されている。				●		
	2	植岡源四郎頌徳碑	大正12年 (1923)	植岡源四郎の顕彰碑（頌徳碑）。正面 には「植岡源四郎翁碑 至誠潤郷 大正十二年」と記されている。				●		
	3	道標（馬田出屋敷路 傍）	嘉永4年 (1851)	七種道の道標。正面には地藏坐像の 像容とともに「右 田口なくさ 左 まいの所安じ」と記されている。				●	●	
	4	道標（馬田出屋敷路 傍）	不明	道標。正面には「右□□□ 左□□ □ 道」と記されているが、地名は 判読できない。					●	
有形の民俗文化財 祭具	5	屋台（馬田区）	—	神輿屋根型屋台。6寸5分の緑の伊 達綱が映える調和のとれた屋台。				●	●	
無形の民俗文化財 年中行事・ 民俗芸能	6	秋祭り（福崎）	—	福崎地区・高岡地区の屋台13台（布 団屋根型6台、神輿屋根型7台）が 二之宮神社に集まる。本宮では、宮 元である山崎屋台が12台の屋台を JR福崎駅前へ迎えに行き、福崎駅前 で屋台が練り上げられた後、二之宮 神社に宮入りする。拜殿で神事が行 われ、五穀豊穡が祈願された後、宮 出しが行われる。山崎の木方による 合図で一斉に屋台が動きだし、練り 合わせを行う「13台サラバ練り」は 見どころである。			●	●	●	
	7	トンド	—	1月14日に児童公園で行われる。				●		
	8	斎灯	—	2月3日に稲荷神社で行われる。				●		
	9	七夕祭	—	7月に公民館で行われる。				●		
	10	夏祭り	—	7月25日に稲荷神社で行われる。				●		
	11	地藏盆	—	8月23日に西正寺で行われる。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
遺跡	街道・古道等	12	旧神西郡の南北道	—	市川右岸を通る。江戸時代には、本道である生野街道ではなく神西郡を通る道筋も頻繁に利用され、役人等の通行時の休泊や諸費用の継立で難渋したため、本道を通るよう嘆願書も提出されている。					
		名勝地	河川・滝	13	市川	—	下流域は川幅が広く、砂州や後背水域など多様な環境が形成され、河川自然植生の多様性が高く、魚類の在来種も多いことから、兵庫県レッドリスト（B）に掲載されている。また、月見橋下流右岸と神崎橋下流左岸は、ミクリ・ナガエミクリが生育する川辺植物群落として兵庫県レッドリスト（C）に掲載されている。			
14	七種川			—	七種の滝を源として南流し、市川に合流する。延長5,924m。かつては大雨が降る度に洪水を起こした。普段はほとんど水がなく、「七種川と水の話」という民間説話が伝わる。					
動物・植物・地質鉱物	植物	15	サクラ（児童公園）	—	昭和43年（1968）頃、児童公園を憩いの場にするために桜の木を植樹することを決定し、消防団が中心となって植樹。自律（立）のまちづくり交付金事業で「さくらまつり」を開催し、多くの住民が参加している。					
その他	信仰の場	16	稻荷神社	—	稲倉魂大神を祭神とする馬田区の氏神。もとは三宮神社付近にあったが、現在地に遷座された後、村人により建て替えられ、住民の拠り所になっている。					
		17	西正寺	—	元亀元年（1570）蓮如上人の弟子僧・釋信法師が開基。本堂は明治15年（1882）の焼失後、明治26年（1893）の再建である。					
	民間説話・地名・伝承地・屋号等	18	西正寺の法蔵菩薩の掛軸伝承	—	明治15年（1882）6月8日に新町で発生した火事が馬田に飛火し、約60戸と西正寺が焼失した。しかし、寺に祀っていた法蔵菩薩の掛軸は、東にある家の裏の大木に止まっており、無事だったという。掛軸は今も再建された寺に祀られているという。 ※『かたりべ 第2集』4頁					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

## 歴史文化遺産の保存・活用の取組等

- ・昭和43年(1968)頃、児童公園を憩いの場にするために桜の木を植樹することを決定し、消防団が中心になって苗木を植樹しました。自立(律)のまちづくり交付金事業で「さくらまつり」を開催し、多くの住民が参加するようになってきました。
- ・自立(律)のまちづくり交付金事業では、「さくらまつり」の他にも、地藏盆やとんど、さいと、餅つきなどの行事、山林整備、クリーン作戦などのさまざまな取組を実施しています。
- ・馬田太鼓保存会や西山稻荷幟芸保存会を組織し、区に伝わる民俗芸能「伊勢音頭」と太鼓の保存・継承、技術の伝承による後継者の育成に取り組んでいます。



さくらまつり



山林整備



餅つき